社会システム科学概論2006

社会システム科学講座
櫻井義秀

履修上の諸注意

- 1　授業方法　話しきりの講義
- →櫻井のHPで内容確認
- 2　社会的事件・出来事への質問
- →自身の考え・経験を人に話す
- 3　評価　レポート
- →フィールドワークで調べた事柄
- 社会学の概念・視点で考える
- 400*10枚以上　＃資料・論理

なぜ、フィールドワークか？

- 社会システム科学概論・社会学概論（社会学説史）　→社会学の一部しか味わえない
- 日常生活に社会学的発想を生かす　→メディア：事件発生　なぜ？問いにこそ学問の方法
- 例：　小3男児殺害事件　全容解明とは？
  →物理的因果関係　暴力→死亡
  →動機・精神的分析　うつ？→犯行
  →家族・職業・社会背景　プライバシー
  要するに、どこまで　誰が　何を　明らかに

フィールドワークの効用

- カテゴリー化の罠を知る　（本来、カテゴリー化なしに認識・生活できない）→根拠を問う
- 例　初対面の人　認識・関係を作る　大変
  →情報の縮減（自身の認識枠に入れ込む）
- 例　髪のない人　可哀相という認識→なんとかしなさい　するべし　しないのはアホか？
- 例　その他、どんな例があるかな？

違和感を大事にする

- 考える必要性　ルーティーン化した世界では動機づけられない　→なんか違うんでないかい？　どこが？　どのように？
- 違和感・疑問　自身の認識、社会常識との差
  →相手の行為を評価しようとする
- 例　私の旅行より　よせば　→　自分はどういう生活様式なのか　日本社会のありよう
- 例　他に違和感を最近感じたことは？

世界を移動する

- 移動者の視点：marginal man 文化の差異
  →時間的：歴史・時代の考察
  →地域的：異文化の考察
- 例　タイ研究　異質性（自分の社会・文化と異なる→研究の対象となる→慣れる：自明）それでも今回の選挙は？？
- 例　移動することで異質さを感じた体験は？
- フィールドワーク：自分から移動し、異質さを探すこと　解くべき課題を発見する